

あけましておめでとうございます

いよいよ今年夏、我が事務所も満10年を迎えます。この間、仕事を通じて出会った多くの方々に支えられながら、気が付くと10年が過ぎようとしています。今後も今まで以上に丁寧な業務を実現して参りたいと考えております。

昨年秋の置賜文化ホールの開館に続き、今年秋には埼玉・富士見市で市民文化会館そして大阪・和泉市で総合センターの竣工を迎えることとなります。

事務所の体制としては、今年4年目に入る神戸、そして昨年秋からもう1名が非常勤ですが、さまざまな側面で業務を支えており、また外部協力体制も連携体制が整いました。

本年もそして今後ともよろしくお願い致します。

A.T.Network 代表 近江哲朗

オープニングシリーズを終えて (置賜文化ホール)

可動式(空気浮上方式)能舞台を実現した「置賜文化ホール」は、昨年9月28日に高円宮殿下を迎えて開館記念式典を行い、金剛流・観世流の能公演で幕を開けました。オープニングシリーズでは能公演からクラシックコンサート(山形交響楽団)、ポピュラーコンサート(サーカス)、そして演劇や公開録音までを含む多種多様な公演を実施しました。可動式(空気浮上方式)能舞台は能公演以外のとき、エントランスホールでお客を迎えるべく、展示していますが、既にエントランスホールでの能公演に期待する声も聞こえています。劇場・コンサートホール・能楽堂と3つの顔を持つホールのキャッチフレーズが更に発展的に変わる可能性も見えてきた感があります。

新たなスタイルを持つホールには、見えない部分での大きな苦勞を伴います。置賜文化ホールはポジティブな舞台技術者に恵まれ、常に新たなトライアルと共に元気に育ち始めました。

劇場・ホールの改修調査 (JATET建築部会活動から)

修繕・更新といった、あくまで元に戻すことを目標として行う行為は、劇場・ホールに限らず建築物全般に必要とされますが、劇場・ホールは常にその時代の舞台芸術ニーズに対応してゆくことが求められます。つまり元に戻す感覚からさらに発展した「改修」が要求されるのです。平成12年度から行ってきた改修実態の調査では、予想通りに改修の遅れがちな傾向が読み取れた反面、積極的に改修を行っている、また行おうとしている事例とも多く出会い、その設置主体である行政の劇場・ホールに対する理解度の格差を痛烈に感じました。

これからの時代は、特に劇場・ホールにおいては長寿命化が図られようとしています。良い意味での古さと、適切な改修による時代への対応性が大きな課題となってきます。新築よりも手強い、かつやりがいのある仕事になります。1月に九州公文協、春先にJATETフォーラム(東京)でこれまでの調査結果を報告する機会があります。

愛称公募いろいろ 「伝国の杜」「キラリ ふじみ」そして・・・

施設の愛称を公募する。もはやあたり前になりつつある愛称公募ですが、果たしてどの程度の応募総数が寄せられているかご存知でしょうか。昨年秋にオープンした置賜文化ホールは博物館との合築施設であり、施設全体の愛称を全国対象の公募としました。その結果応募総数約1500点が寄せられ「伝国の杜」という愛称に落ち着きました。

埼玉県・富士見市では施設の開館予定1年半ほど前に施設全体の愛称公募を近隣の2市2町に限定して行い、その結果応募総数約300点が寄せられ「キラリ ふじみ」という愛称に決定しています。近江も事務局支援を行い、審査準備から審査会まで立ち会う中で、審査方式による影響が決して少なくないことを体験しました。あくまで投票制主体で決定してゆく進め方と、投票+合議を重ねる進め方とは何か結果が異なるように感じられます。無難な愛称で収まったり、審査員の意図が大きく込められたりといった印象を感じています。

新年早々、大阪・和泉市での愛称選定があります。是非これらの経験を活かせればと考えています。

編集後記

スタッフが充実して、全員が揃うと事務所が手狭になってしまいます。近江はそれを幸に打合せテーブルでのんびり、いや処理業務を行ったり、図面チェックをするなど結構楽しくやっており、事務所の移転はまったく考えていません。

年末年始休暇のご案内・他

・年末年始休暇・・・12月29日～1月6日
2002年も、現場・打合せ・調査などのために出張・留守となる日があります。
ご迷惑をお掛けすることもあるかと思ひます。悪しからず、ご了承願ひます。